

## 深圳レポート

### 2019年、中国VR業界の市場を分析 中国VR業界の発展と課題

ポイント：

- 中国VR(仮想現実)業界の市場発展の見通しは明るい
- 中国VR業界市場の課題
- グローバルVR市場の予測

参照サイトURL：

<https://bg.qianzhan.com/report/detail/300/191028-6df40079.html>

<https://bg.qianzhan.com/report/detail/300/191025-81ef8840.html>

#### 中国VR業界の市場発展の見通しは明るい

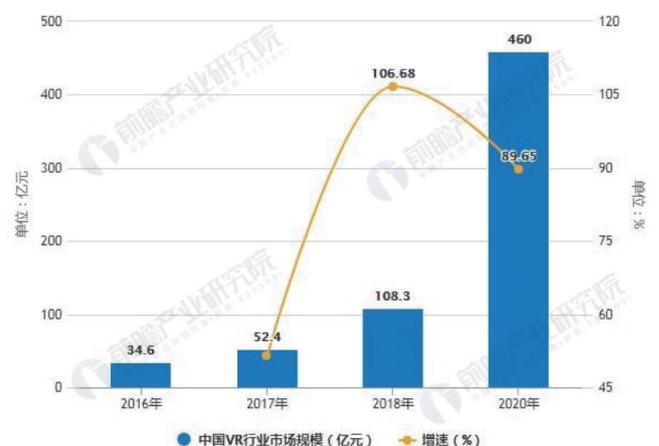
現在の中国VR産業を俯瞰すると、以下のような利点がある。

##### ①良好なビジネス環境

まずマクロ環境では、中国政府の「十三五計画(第13次五カ年計画)」の中で「大衆創業、大衆革新」が提案され、社会的資源が完全に解放され、新技術、新産業、新業態の発展のために便利な外部環境が提供された。ミクロ環境では、テクノロジー系大手各社を中心に業界間の連携・協力がより緊密になり、VRコンテンツへの理解も深まり、VRコンテンツの品質が大幅に向上する。

「前瞻産業研究院」のレポートによると、中国のVR産業は2016年から発展しており、市場規模も急速に成長している。2016年、中

国のVR産業はわずか34億6000万元(約540億円)程度だったが、2018年には100億元(約1560億円)を超えた。今後5年間、中国のVR市場は急速な成長を維持することが見込まれ、複合年間成長率(CAGR)は80%超と予測されている。また、2020年までに同市場規模は450億元(約7000億円)を超えることも予測されている。



@ 前瞻経済学人APP

▲2016-2020年の  
中国VR産業市場規模統計と成長予測  
データソース:前瞻産業研究院のまとめ

## ②豊富な資金

中国の製造業の発展とともに、大量の資本や技術者がVR分野に投資され、VR機器の製造やVR産業のレイアウトの発展・拡大を後押ししている。多額の資金投資により、国内のVR業界では品質が高い、優れたコンテンツも登場するようになった。

## ③社会的ニーズの高まり

中国のVR市場には潜在的に大規模なユーザーがおり、市場には幅広いニーズが存在している。需要と供給の関係からすれば、ユーザーコミュニティの急速な拡大はVR産業の発展を大きく促進させることになる。

需要側からは、VR技術の発展と概念が広く普及することにより、市場の需要は増加し続ける。VR製品の増加と技術発展により、VR製品の価格は安くなり、VR製品の人気はさらに高まる。「IDC China」のデータによると、中国AR/VR産業の2018年の消費支出は30億3800万元(約470億円)であり、2019年から2023年までは急速な成長(年間平均複合成長率は77.8%に達すると予測されている)を維持することが予測されている。そして、2023年には650億元(約1兆円)に達する見込みだ。



▲2018-2023年、  
中国のAR/VR産業消費支出規模統計と成長予測  
データソース:前瞻産業研究院のまとめ

## 中国VR業界の課題

とは言え、中国のVR産業の発展には課題も存在している。例えば、中国のVR業界は発芽期の典型的な特性を示している。集中度が低く、提供および開発された製品の品質は不均一。製品標準も均一化されていない。業界チェーンの発展は不完全であり、業界全体の急速な成長を維持するためには、変化を必要としている。

## ①統一基準の欠如

現在のVRコンテンツはPCとスマートフォンといった端末の違いだけでなく、様々な外部設定やハードウェア構成にも影響される。例えば、スマートフォン向けVRコンテンツは、ほとんどが独自のハードウェア設計に基づいており、異なるデバイス間で共通化することは困難

だ。統一基準がないため、様々なアプリケーションプラットフォームに対応させる必要があり、結果としてコストが大幅に増加してしまう。

## ②製作コストが高い

VRコンテンツは非常に幅広く、現在はゲーム、映画、テレビ等の分野が中心である。しかし、高い製作コストと設備、撮影技術の未熟さ等がハードルとなり、VRコンテンツはまだ非常にとぼしいと言わざるを得ない。

## ③設備技術の改善が必要

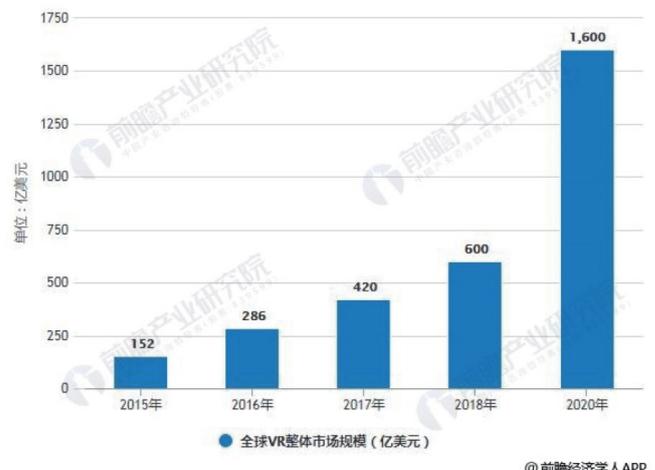
VRデバイスはVRコンテンツを再生するものであり、デバイステクノロジーのアップグレードがVRコンテンツの品質アップにもつながる。VRビデオコンテンツを例にとると、VRムービーのパノラマ撮影とモーションキャプチャの品質は、パノラマ撮影機器の品質に大きく依存している。

現状では、価格がどんなに高いVR製品でも、プロ仕様モデルでも、ハイエンドなVR撮影を望むチームには満足感を与えられていない。そのため、こうしたVRビデオコンテンツ業界の高い要求に少しずつ応えていながら、VRデバイスの技術を常にアップグレードしていく必要がある。

同時に、関連VR製品、各種関連技術、国内および海外の業界標準を早急に統一し、VRヘルメットやVRメガネ等のVR製品に対する安全基準等を設けることは、今後のVR市場の発展にとって欠かせない作業だろう。

## 2020年のグローバルVR市場規模予測

VR、AR専門調査会社「Greenlight」によれば、グローバルVR市場規模は2018年に600億元(約9400億円)を超え、2020年には1600億元(約2.5兆円)に達する見込みだ。年間平均複合成長率は63.3%と推測されている。



▲2015-2020年、  
グローバルVR市場規模と成長予測  
データソース:前瞻産業研究院のまとめ

## ヘルスケアデバイスのハイテク企業、「医療+介護」モデルの優等生

社名	北京健科云网科技有限公司	英語名	-
代表者	褚天旭	URL	http://www.cloudh.net.cn/
所在地	北京市海淀区上地東路 35 号院 1 号楼 5 層 1-610-628		
売上 (RMB)	N/A	従業員 (人)	44
創業年	2016.09.28		
資本金 (RMB)	1000 万 (約 1.5 億円)		
サービス内容	家庭用ヘルスケアロボットの開発と、プラットフォーム運営		



家庭用ヘルスケアロボット及びカスタマイズソリューションを提供。クラウド上でオンライン・オフラインのデータを結びつけ、分析する。

主なサービス

①家庭用ヘルスケアロボット「YIDOKA」:オンラインヘルスコンサルティング、事前病気診断、病院予約、日常健康検査、オンライン薬剤購入など

②スマートセルフチェックサービス:YIDOKAとセットのデバイスを利用して、自宅で血圧、血中酸素濃度、血糖値を計測でき、計測後はBluetoothでデータを自動的にアップロード。

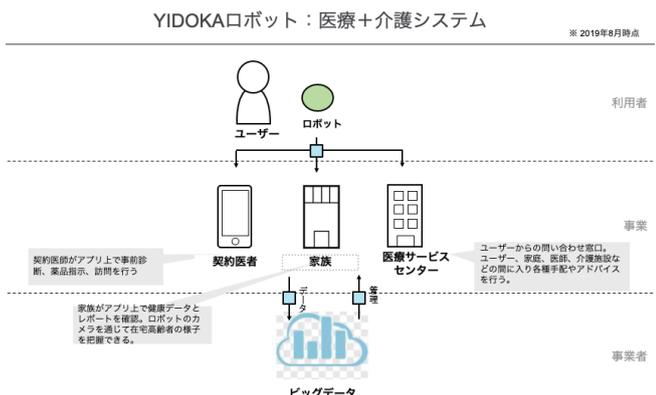
そのデータは契約している医師に送信される。

③YIDOKA医師プラットフォーム:本人、もしくは家族が必要と感じた場合、まずはオンラインで診断する。その後必要に応じて病院に行く、または往診が選択できる。その医師や医療関係者、介護施設を繋ぎ、必要なユーザーデータを収集、医者の方のスケジュールを確認し予約日候補を表示する。

④YIDOKA家族用アプリ:離れて暮らす家族へのアラート、ヘルスケアリスクアセスメントなど付加サービスも提供する。特にスマートデバイスの操作が苦手な高齢者に対して画像、音声、ビデオなどでわかりやすく説明する。

### ■業界ポジション:今後は地方自治体と連携し、介護施設への導入を目指す。

「医療+介護」モデルを作り、「医療サービスセンター、契約医師、病院医師」の医療サポートチャンネルを切り開いた。(下図参照)



家庭用ヘルスケアロボット「YIDOKA」は、複数のバイタルデータを統合してクラウド管理しており、特筆すべきはAPI (Application Programming Interface) とBluetoothにより、多数の他社ヘルスケアデバイスにも接続することができる点である。

YIDOKAプロジェクトは2018年10月にテスト運用を開始し、中国河北省にロボットと備え付けのデバイスを数百台を投入し、数百家庭の健康データを収集。その後13の地域にて代理店と締結。

市場に出回っているほとんどの家庭向けヘルスケアロボットがあくまでも「家電」として展開しているのと異なり、YIDOKAは第二類医療器材というカテゴリーで医療機器として市場への参入を計画している。

ビジネスモデルからみると、YIDOKAは現在B向け(病院と製薬会社)とC向け共にハード(ロボット本体、セットデバイス、消耗品)とソフト(プラットフォーム利用料金、オンラインとオフラインのヘルスケアサービス料金)を提供し売り上げを伸ばしている。

B向けには薬品販売や患者紹介の手数料ビジネスも展開している。現在次の一手としてG向け(政府機関、特に地方自治体)とB向け(介護施設向け)にサービス展開を計画している。

ビッグデータプラットフォームの利用料、介護施設向けのハードウェア販売も計画している。



▲YIDOKA  
ロボットのモニター ▲家族向けのアプリ ▲医者向けのアプリ



▲セットデバイス

# 【Who are you? What are you doing?...】

マーケティングだけではなく、業務におけるコミュニケーション効率化でよく使用されている「5W1H」(Who(だれが)、When(いつ)、Where(どこで)、What(なにを)、Why(なぜ)、How(どのように))はグローバルスタンダードとして、中国でもよく利用されている。

最近、中国で話題になっているのは、この5W1Hを超えた問いかけである。社会学者である汪丁丁が「思想史基本問題」で提起している5つの質問だ。特に若者の間ではSNS等での「話頭」(話のきっかけ)になっている。

それは【你是谁?】、【你(能)干啥?】、【你为谁干?】、【别人需要你吗?】、【社会更好了么?】

唯来企业管理咨询(深圳)有限公司  
副總經理

## 姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。  
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



つまり、「あなたはだれ?」「あなたは何をしている?(何ができる)」「あなたは誰のために働いている?」「他人はあなたを必要としているのか?」「(あなたの働きによって)社会はよくなっているのか?」である。

5W1Hより、ドンと深くなった問いかけとなっている。

改革開放より40年ほど経ち、激変する中国において、経済成長を目指して走ってきた人々の中で、もう一度仕事に対する姿勢を改めようとする動きが出ている。

5W1Hで効率よく仕事をこなすことも素晴らしいが、それを超えた倫理、社会的な責任等を追求し始めていることは、中国人、中国企業が短期的利益追求志向を脱する兆しかも知れない。

筆者も【你是谁?】、【你(能)干啥?】で、仕事と生活の状態をもう一度考えている次第である。



(レポートは2019年12月25日現在の情報)



## 深圳未来创新服务中心 MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061  
TEL:86-135-3089-3085  
<https://micsz.jp/>